

立教大学学術推進特別重点資金（立教SFR）
 大学院生研究
 2012年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院	観光	研究科	観光	専攻
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年		氏名		
	観光研究科・観光・5年		姜ボ競 印		
指導教員	所属・職名		氏名		
	観光学部・教授		安島博之 印		
自然・人文・社会の別	自然	・	人文	・	社会
			個人・共同の別	個人	・共同名
研究課題名	新大久保における都市観光地の形成				
研究組織	在籍研究科・専攻・学年		氏名		
	観光研究科・観光・5年		姜ボ競		
研究期間	2012年度				
研究経費	200 千円（実績額又は執行額）				

研究の概要（200～300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。）

都市地理学において、エスニシティは移民者が集まっている地域、エスニックセグリゲーションの事をさしている。都市地域において、エスニシティは従来、ネガティブなイメージを持っていたが、都市観光資源の多様化により、エスニシティが注目され始め、増加する観光客に対し、都市観光地化された。代表的な事例としては、チャイナタウンがある。新大久保コリアンタウンは近年、韓流により、新しい都市観光スポットになった。しかし、新大久保地域のコリアンタウンは過去、観光地どころか、ネガティブなエスニシティであった。その為、エスニシティの都市観光地による激しい地域変化が観察される地域であると考えられる。

したがって、エスニシティの都市観光地化による地域の変化と韓国と日本の社会背景を通じてエスニシティにおける都市観光地化の意味を追求するのが本研究の目標である。

キーワード（研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。）

[新大久保] [都市観光地] [エスニシティ]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)**1. 研究の背景と目的**

観光学は複合学問である。そのため、観光学を専門とする本観光学研究科においても研究分野は、観光地計画、観光地形成、観光文化など多岐に至る。また、このような分野での研究は今後とも活発に行われると考えられる。一方、観光という指標をもって地域の変化、特にエスニシティの観光地化による変化をみようとする研究はそれほど多くない。また、本研究科で申請者の研究対象である新大久保コリアンタウンの変化に関する論文は、外国人居住に注目した稲葉の研究がある程度であるし、それも観光地化に焦点を当てたものではない。エスニシティにおいて、都市観光地化は最も居住移民者の生活に組み合っている。また、地域内では、元々、移民者向けだった食堂や店が観光客向けになっている店も多くなっている。このように、地域の変化を移民者のインタビュー調査を通じてエスニシティの都市観光地化を研究することは有意義であると考えられる。

2. 研究対象地と研究方法

(1) 研究対象及び、研究対象地としては、激しい変動を経験した韓国系移民者を中心とし、国内コリアンタウン地域を事例として取り上げたがメインになる研究地は新大久保コリアンタウンである。

(2) 研究方法は、インタビュー調査であり、新大久保、韓国、大阪の鶴嘴以上の三つの場所で行った。地域によるインタビュー対象は以下のようである。

- ① 韓国： 新大久保地域で居住した経験がある人 (韓国人)
- ② 新大久保： 現在、新大久保で働いている人 (韓国人：ニューカマー)
- ③ 鶴嘴： 現在、鶴嘴で働いている人、鶴嘴を訪問した人 (韓国人：ニューカマー、オールドカマー、日本人)

インタビューは一人に 30 分から 1 時間にかけて行われた。インタビューの内容は、基本情報、街の過去や現在、街に定着するまでのライフストーリーの 3 項目に分けられる。

(3) 各地位別調査期間及び、インタビュー人数は以下のようである。

- ① 新大久保： 2012 年 6 月から 2013 年 1 月まで実施・インタビュー人数 10 人
- ② 韓国： 2013 年 2 月 10 日から 2 月 15 日まで滞在・インタビュー人数 3 人
- ③ 鶴嘴： 2013 年 3 月 1 日から 2013 年 6 日まで滞在・インタビュー人数 5 人

3. 調査結果**(1) 新大久保でのインタビュー**

今回のインタビューを通じて新大久保の 1990 年代の移民者の生活及び街の様子が明らかになった。

1990 年代は職安通りの方には韓国人が集まり、新大久保地域の中でも、コリアンタウンと呼ばれた地域は職安通りだったという。当時、新大久保には韓国から来た旅行者、留学生やビジネスのために来日した人等、滞在する韓国人が増えるようになり、その影響で 1990 年代には新大久保のコリアンタウン化が徐々に始まる。2006 年から 2007 年にかけて、円安の影響で韓国から来た留学生が大幅増えるようになり、新大久保に、多くの韓国人留学生が集まるようになった。インタビューによると、現在注目されているイケメン通りは元々、留学生の街であったという。

当時の街のあだ名は「金葉局通り」であり、来日した留学生の基本ルートである韓国語対応可能な携帯ショップと韓国食材を扱う「韓国広場」をつなぐ道として知られた。2011 年頃の東北大地震や円高で、新大久保の留学生は大幅減少したが、逆に、あいまいな心構えではなく、本当に日本に愛着をもっている人だけが新大久保に残り、その人の原動力と 2 次韓流ブームのコラボレーションで今の新大久保が誕生したとも言われていた。

研究成果の概要 つづき

(2) 韓国でのインタビュー

稲葉(2008)によると、1980年代後半からニューカマーによるニューカマーのための「エスニック系施設」への転換が始まったという。今度のインタビューではエスニシティの特徴の一つ、人の入れ替わりが激しくて収集する事が難しい 1980年代後半の資料を入手する事が出来た事に大きな意義がある。

1986年から海外開発公社(過去、ソウルの大学路に位置)から海外就職を実行され、日本語学校「赤門会」(西日暮里に位置)とグレック等と連例し、海外就職のように書類作成、ビザをもらってパスポートを発行してもらい、日本語学校に派遣したという。

当時、韓国は海外旅行自由化の前だった為、ビザよりパスポートもらうのが難しい時代だったので、ビザを先にもらってからパスポートの手続きが始まったという。

その時、来日した人達がビザをもらうため、専門学校、大学に進学するケースも多かった。

就学ビザで日本に上陸し、留学ビザに変更して進学、そして、学校卒業後日本に定着した人々が今の新大久保を形成したといわれている。

(3) 鶴橋でのインタビュー

鶴橋でのインタビューの主な目的は新大久保とオールドカマーの関係を調べる事だったが、結局、新大久保はオールドカマーと関係がない事だけ確認できた。

鶴橋コリアンタウンはオールドカマーのニーズにより形成された市場であり、韓国の伝統儀式である「ゼサ」(先祖に祈る儀式)の為に必要な食材を中心に商売していた。90年代初期までキムチ等の大量販売は鶴橋でしか出来なかったといわれている。

鶴橋が時間をかけてゆっくり成長した事に比べ、新大久保は短時間で成長した。鶴橋のオールドカマーの中で新大久保に進出した人はめったにない。逆に東京でビジネスをしていた人の中で大阪に進出した人はたまにいるといわれている。

4. まとめ

(1) 地域の構成員をめぐっては、今まで、国内のすべてのコリアンタウンはオールドカマーと関係があると考えられていたが、新大久保のコリアンタウンの場合、その地域を構成しているのは韓国系移民者のニューカマーである事が明らかになった。

(2) 新大久保におけるニューカマーによるエスニシティの構成過程を明らかにした。新大久保の場合、最初は隣に接している歌舞伎町の影響で、移民者が集まったが、そこで終わらずに日本語学校等、移民者向けの学校が集中し、留学生の街として発達し、その留学生が卒業後、自分が学生時代を送ったなじみのある街、新大久保に定着し、街を発達させた。

(3) 新大久保の観光地化においては、現在、観光スポットとして注目されている場所は、新大久保地域に滞在していた韓国系留学生の集まり場であった事が明らかになった。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)